

11月の園だより

学校法人 鶴来学園
鶴来第一幼稚園

先日行われた幼稚園バザーでは多くの皆様にご来場頂きありがとうございます。また実施にあたっては、PTA役員や各種委員そしてボランティアの皆様にも多大なご協力を頂きました。この場をお借りし改めて心から御礼を申し上げます。

さて、今年4月から教職員が一丸となり行っている教育改革においては様々なテーマや課題がありますが、その中の一つに「子供の主体性」と「学びの連続性」ということがあります。第一幼稚園と第二幼稚園のPTAが合同で主催する行事として行われている幼稚園のバザーは、子どもたちのために園の設備の充実や教育に必要な用品を購入する資金を調達することが主な目的ですが、今年はその中に子どもたちの主体性と学びの連続性を意識した「学びと育ち」の要素を取り入れることが出来ないかということ話し合い、新たな試みとして第一幼稚園と第二幼稚園の年長クラスの園児と担任とで「年長商人（ねんちょうあきんど）」に取り組みました。今回のテーマは「社会の成り立ち」で、私達が暮らしている社会にはどのような仕事（役割）があつて、労働するということとそれによって得られる対価との関係性や、それらがどのように循環して社会は成り立っているのか？ということ、準備の段階から事前学習の過程、そしてバザー当日から終了後に行う振り返りまでの一連の流れの中で5歳児なりに考え、探求し、体験（実践）を通して学ぶことが出来るような仕掛けを考えました。子どもたちは二学期に入ってから、第一幼稚園は“よらんかいねえ市場”へ行き見学し、また第二幼稚園は遠足の時に訪れた体験施設でどのような仕事があるのかを調べ、それぞれが見てきたことを幼稚園に持ち帰り、クラスの皆で話し合つて考えたり意見を出し合つたり、予行演習をして準備を進めてきました。

バザー当日、子どもたちはお店のスタッフとして働き、その対価としてお給料（100円のバザー券）が実社会と同様に支払われ、それは子どもたち自身が稼いだものとして自由に使つていいものですが、小学生になるとお小遣いを貰うようになる子も多く、この機会にぜひお金の価値観やお小遣いのことをお子さんと一緒に考え、また働くことの本来の意味（「はたらく」の語源は、傍（はた）の人を楽（らく）にさせる、つまり「利他の心や行為」です）についてもご家族で話しあつてみて頂ければと思います。

今回の取り組みでは、子どもたち自身が主体性を持って取り組む姿が多く見られました。もちろんそれらは子どもたちだけで自然にそうなるのではなく、教師の側が子ども達が主体性を発揮できるよう事前の入念な準備や環境設定を行うことで初めて可能となります。同じことをするのでも、誰かに言われてやるのと自分から進んでやるのでは、天と地ほどの違いがあります。なぜなら前者は言われたことをただやっているだけですが、後者の場合は自ら進んで（主体性を持つて）取り組むことが「自己有用感」や「自己肯定感」を育むことに繋がるからです。

特に幼児の時期は「自己有用感」や「自己肯定感」を育むのに大切な時期です。自己有用感は自分の存在が周りの人に役立っている、貢献していると認識することで生まれ、それが高ければ高いほど周囲への貢献意欲も高まり、感謝の気持ちも芽生えます。また「自己肯定感」とは読んで字のごとく、自分を肯定する感情で「自尊感情」ともいいます。いろいろな自分を認め、ポジティブに捉えられる人を“自己肯定感が高い”と表現します。これらの要素は子どもたちが小学校以降の教育を受けていくうえでも、また社会に出てからもとても大切です。

将来の変化を予想することが困難な時代を前に、子どもたちが社会の変化に受け身で対処するのではなく、現在と未来に向けてひとり一人が自らの人生を切り拓き、より良い社会と幸福な人生を自ら創り出していくのに必要なチカラを育むことが出来るよう、これからも教職員一丸となって取り組んでまいります。

幼稚園統括園長
中嶋 謙仁

11月の指導計画

幼稚園では各クラスの担任が下記の指導案に基づき、子どもたちの学びと育ちをサポートします。各ご家庭においても下記（今月のねらい）をご理解いただき「今日は幼稚園でどんなことをしたの？」など、お子さまとコミュニケーションしたり、同様の視点でお子さまと接していただくことで、お子さまの成長を感じて頂ければと思います。

- 年長 目的をもって、意欲的に取り組み、自分の力を思いきり発揮する充実感を味わう。
友達と思いや考えを伝え合い、協力して遊びや活動を進める楽しさを味わう。
秋の自然にふれ、生活や遊びに取り入れ自分なりに表現して楽しむ。
- 年中 気の合う友達と一緒に、遊びや生活の場を作ったり、かかわったりしていく。
友達や教師と一緒にイメージをふくらませたりのびのびと表現したりする。
身近な秋の自然に触れながら季節の変化を感じる。
- 年少 身近な秋の自然にふれ、遊びに取り入れたりして楽しむ。
友だちと一緒にイメージをもって動いたり、踊ったりして表現遊びをすることを楽しむ。
- 未満児 保育者や友だちとの関わりを深めながら言葉のやり取りを楽しむ。
リズムや音楽に合わせて、自分なりに表現することを楽しむ

子どもの姿（10月）

（年長）

・バザーで第二幼稚園のお友達が開いてたお化け屋敷を見て、自分たちでもお化け屋敷を開きたくなった年長さん。階段の下のプレイスペースを段ボールや新聞紙で囲って暗くして、子どもたちは布や段ボールを被ってお化けになりきっていました。「お化け屋敷やってま〜す！」とみんなを呼びに行き、中からはキャー、キャーと叫び声が聞こえてきました。いつの間にか年少さんもお化けに変身して登場し、大混雑のお化け屋敷となりました！

（年中）

・ハロウィンのコスチュームについて学年全体で何になりたいのか、どんな色の何を身につけるのかを話し合ってきました。なりたい物はかぼちゃ・こうもり・お化け幽霊・魔女魔王・黒猫・ウサギ・鬼・ロケット・プリンセス等10種類！コスチューム作りが始まると、友達と一緒に競い合っって飾りつけをして楽しそうな子ども達。

中でも鬼チーム3人はアイデアを出して盛り上がっていました。豆の様なつぶつぶを折り紙の封筒に積めて洋服に取り付けていました。『豆作ってるの?』と尋ねると『このポケットにお菓子いれるんやし』ハロウィンでもられるお菓子を入れる袋らしいのです。大満足の笑顔。3人の素敵な鬼さんでした。また、こうもりグループの男の子。コスチュームが出来ると、羽を背中に背負って椅子を積み上げ、登ってジャンプ・・・登ってジャンプ・・・。翌日、教師へ報告していました。『先生、僕(こうもりの)羽無くても飛べる様になったからっ』あの一生懸命にジャンプしていた姿は、飛ぶための練習だったようです。そして、いざ脅かしに行くその日は午後からの予定でした。つくしぐみさんはお昼寝をしているので配ることが出来ないという事実が発覚しました。そこである女の子はつくし組対策を考えました。「つくしぐみさんの寝ているところにはそっとう行って、頭のところに(作った木の実の)お菓子置いてこようよ」皆も賛成でした。素敵な良いアイデア、そして小さい子を思いやる気持ちに成長を感じ嬉しく思いました。

(年少)

- ・お絵かきをしている時、クレヨンを床に落としてしまったIちゃん。拾いだすと、隣に座っていたFちゃんが、すかさず一緒に集めはじめました。「Fちゃんありがとう!!」とサラリとお礼を伝えたIちゃん。子ども達の優しい姿でした。
- ・4グループに分かれ、1日交代で片付け当番をしています。「ごちそうさま」が終わると「今日何グループ?」「赤だよ!」と子ども達で確かめ合っています。「チカラもちさん」と言われることも嬉しいようで、食器の入ったカゴを協力して給食室まで運び、お手伝いに張り切っている子ども達です。

(未満児)

・お友達に興味が出て来たつくしぐみさん。『○○ちゃんきたよー』『○○ちゃんまだきてないねー』『○○ちゃんおやすみ?』とお話ししてくれたり、子ども達同士でも『○○ちゃんあそぼ!』『○○ちゃんやくそくしとったよねー』なんて言い合いながらままごとや戦隊ごっこなどを楽しむ姿が見られるようになってきました。10月終わりには4月から一緒に過ごしてきたSくんがお引越して転園しました。初めてのお友達とお別れに、不思議そうな表情を浮かべていた子ども達。数日後、『Sくんどこいったん』『Sくんおやすみ?』と寂しそうに聞く子が何人もいました。転園先は第二幼稚園ということで今月は会える機会を設けたいと思います(^^)どんな再会の表情を見せてくれるか楽しみです♪